

第10回熊本大学沿岸域環境科学教育センター講演会「沿岸域環境科学の最先端—基礎研究から保全・再生・防災まで—」

2012年3月22日(木), 第10回熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会を共催した。

本拠点研究の研究班が共催した本年度の講演会では, 当センター専任教員および客員教員を中心に, 「沿岸域環境科学の最先端—基礎研究から保全・再生・防災まで—」のテーマの下に, 年間の調査研究に関する最新の成果が報告された。

卒業式前日の開催のため, 例年より参加者は少なかった(31名, 講演者を除く)が, 学内外の研究者や一般市民のあいだで熱心な議論が交わされた。

実施概要

開会の挨拶 滝川 清 (熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター長)

講演 (講演 25分, 質疑 5分)

- ・ 13:10-13:40 「有明海におけるナメクジウオの個体群動態」 逸見泰久 (生物資源循環系解析学分野 教授)
- ・ 13:40-14:10 「八代海湾奥部における小型底生生物群集の動態」 嶋永元裕 (生物資源循環系解析学分野 准教授)
- ・ 14:10-14:40 「海藻付着細菌による環境モニタリング」 滝尾進 (生物資源保全・開発学分野 教授)

14:40-15:00 休憩 (20分)

- ・ 15:00-15:30 「環境と防災の調和した八代海再生の研究プロジェクト」 滝川清 (水・地圏環境科学分野 教授)
- ・ 15:30-16:00 「平成23年度震災復興・日本再生支援事業(熊本大学・国立大学協会共催)の成果」 秋元和實 (水・地圏環境科学分野 准教授)
- ・ 16:00-16:30 「泥質干潟の保全と再生—シギの餌の観点から」 桑江 朝比呂 (沿岸域社会計画学分野 客員教授)
- ・ 16:30-17:00 「有明海における懸濁物の輸送現象について」 中川康之 (沿岸域社会計画学分野 客員准教授)

○司会進行 秋元和實